

# 地質調査技士に合格して

日本地下水開発(株) 鈴木 太郎



原稿依頼を二つ返事で快諾したにも関わらず、あっという間に年の瀬が迫り、早く提出しなければという思いと、自分の僅差の合格体験記の中から役に立つ勉強法を捻出できるのかという思いで押し潰されそうな中ベンを握っております。

まず、点数アップと試験勉強のギアを入れることを目的に地質調査技士講習会に参加しました。過去の体験記を読むと、この講習会までに過去問を解いていた方もいるようですが…。講習会では試験問題の全体の傾向の説明をテキスト付きでしていただきました。この講習会では試験範囲を大まかに掴むことができ、大変有意義でした。

講習会后、過去問をホームページから5年分印刷し、選択問題を中心に解くことにしました。ここで私が気付いたのは、一度解いた問題はなんとなく文章を覚えているため、数回繰り返せば解けるように思うのですが、違う年の似た問題では

とたんに解けない、というものでした。そこで、数年分の類似した問題を並べた上で、講習会テキストや参考書(ボーリングポケットブック等)の該当箇所をひたすらチェックしていくという草の根対策に出ました。文章の正誤を「過去問で見た文章だから」ではなく、「参考書のあの箇所にあったから」判断できるようになると、自信を持てるようになりました。

記述に関しては、技術者倫理を妻の前で暗唱しチェックをしてもらったり、各項目を日頃の業務と照らし合わせて、それぞれ具体例を考えることで頭に刷り込ませました。技術問題はまさに試験直前に担当していた業務の報告書作成内容がドンピシャで出たので、日頃の報告書業務が一番糧になると思います。

書いてみたら当たり前のようなことでしたが…今後受験される方に少しでも参考になれば嬉しいです。

## (株)ダイヤコンサルタント 菅原 恵



地質といえば、中学校で習った深成岩や火山岩、大学の一般教育で受けた講義が思い出されるくらいだったが、縁あって地質調査業に関わることになった。年月が経ち、ようやく資格を満たした今年4月、地質調査技士の受験を勧められた。

技術系の資格は初めての挑戦となるので、先輩方に話を聞いてみると、ほとんどは1回で合格しているとか、いや、技術士より難しいとか…。どちらにしてもプレッシャーである。しかし、受けるからには一発合格を目指し、7月までの3ヶ月間は、大学入試以来ではないかという猛勉強の日々であった。

周知のとおり、私が受験した現場技術・管理部門は、今回より地質調査コース、土質試験コース、物理探査コースが統合された。つまり範囲が広がり、出題数も増えるのだから、3ヶ月での準備は大変厳しいものがあつた。特にこの期間は出張が多かったのだが、自分だけではないと諦めて頑張ることにした。

短期間ではあつたが、受験対策は以下のとおり進められた。

### 1. 択一式問題

過去問題を繰り返し解くことが中心であつた。あまりの幅広さに絶句したが、何度かやっていると、意外と同じ問題が出題されているのがわかる。分野ごとにノートにまとめ、傾向を分析し、頻出問題を押さえるようにした。譲っていただいた前年度の「事前講習会テキスト」も活用し、正解の選択肢を何度も書くことで覚えた。

### 2. 記述式問題

過去の出題から、軟弱地盤、地すべり、液状化、盛土といったところを重点的にまとめた。親身になってご指導くださった上司のおかげで、大変勉強になった。とは言いながらも、直前になっても自信がなかったため、とりあえずキーワードを盛り込むことで部分点を稼ぐことを狙った。また、必須の倫理については、全地連の倫理綱領をとにかく丸暗記した。

### 3. 事前講習会

2点の加算が目的ではあつたが、多くのヒントを得られた。例えば先に述べた技術者倫理については、倫理綱領そのものではなく、それを踏まえたくて、技術者としてどう行動するのかを問われる、等のアドバイスがあつた。以後の対策に大変役立った。

受験生に人気(?)と、たまたまネット上で見つけた「青ペン勉強法」を活用してみた。その名のとおり、ひたすら青ペンで書きなぐることで記憶するというものだ。効果はあつたようだが、ペンダコが育ち、腱鞘炎気味となつた。

前日まで出張となつてしまい、不安と緊張でよく眠れないまま当日を迎えた。やはり3コースの統合が響き、100問はかなりのボリュームに感じられた。終了30分前にはほとんどが退席してしまったが、最後まで粘つた。心配していた午後の部も、何とか記述はできたものの、解答用紙の余白が気になつた。

「終わった…(いろんな意味で)。」終了後は、この一言しかなかった。やはり8年の実務経験(条件により異なる)を求められる試験だけあり、それなりのレベルだと痛感した。来年頑張ろう…と、少々落ち込みながら仙台を後にした。

合格発表の9月10日、結果を知つたのもまた、出張帰りの新幹線の中であつた。信じられない思いと安心感で、いつまでもスマートフォンの画面を眺めていたのを覚えている。会社に戻ると、皆さんからのお祝いメールが並んでいたのも、嬉しい思い出だ。退職された方からの電話までいただき、改めて女性の連絡網というのは凄いものだなと感心した。

受験にあたりお世話になつた上司をはじめ、質問攻めに遭われた皆様には、心より感謝申し上げる次第である。まだまだ勉強不足だと実感している一方で、業務に関わる資格を身につけたことは、大きな自信に繋がつた。更なるレベルアップを目指して日々の業務に取り組んでいきたい。